

想い写真に寄せ——〇名が感動共有



主催 一般社団法人 日本写真文化協会

第71回全国展フォトコンテスト表彰式

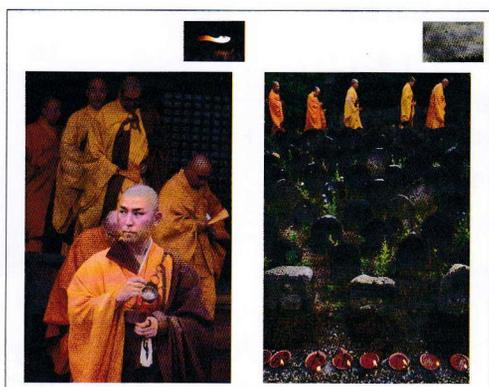
5月28日(水)、東京都美術館講堂で第71回全国展フォトコンテストの表彰式が行われた。全国各地から約110名が出席、十代の学生から八十代までが肩を並べて表彰される全国展ならではの和やかな一日となった。表彰式終了後、一同展示会場へと移動して共に作品を観覧、審査員や文協スタッフも加わり交流のひと時を楽しんだ。その後、写真家・辰野清氏による「写真の日」記念講演会を開催、130名を超える来場者で賑わった。大阪・巡回展は9月19日(金)から25日(休)まで富士フィルムフォトサロン大阪で開催される。

上位6賞受賞者と審査員。前列左より、教野弘孝さん、加藤和奏さん、石津武史さん、相川頼之さん、永田久美子さん、武藤芳行さん、後列左より審査員の小林かずとも、辰野清、菅原隆治、田中秀幸の各氏。

今回で71回目を迎えた全国展フォトコンテスト表彰式は、天候にも恵まれ東京都美術館・講堂で午後1時より開催。当協会・田中秀幸会長、来賓を代表して公益社団法人日本写真家協会・山口規子副会長が挨拶。続いて、当協会文化部・小林かずとも部長が選考経過を報告した後、表彰状授与へ。全国から参集した受賞者は一人ずつ上手から壇上へ上がり、写真家・辰野清氏、雑誌CAPA編集長・菅原隆治氏、田中秀幸会長から

表彰状を授与された。

辰野氏は講評で「写真はいろんなジャンルがあるが、読み解き方や見方は通じるものがある。作者が何を伝えたかったのか？を思いやりながら観ることが大切。作品はどの部門も素晴らしく、とくに上位作品は当初から目に付いた」と発言。菅原氏は、「学生の部」の作品について触れ、「これが本当に高校生が撮った写真なのか？と思えるほど素晴らしい作品が多かった」とし、朝の家族の一瞬を捉えた協会賞の加藤和奏さん、家族みんなのなか



内閣総理大臣賞「送り火」石津武史(奈良県)



内閣総理大臣賞／石津武史さんの挨拶
80歳を過ぎてこんな賞を戴くなんて本当に嬉しい。作品は、飛鳥時代から続く元興寺の送り火の様子を撮ったもの。お盆に魂が戻ってきて再び帰っていく、というイメージが浮かんできて作りました。それぞれにある上の小さな写真は、魂と再び西の空へ帰っていく鳥。写真をずらしたのには、お盆で戻ってきた魂が帰る時間の経過を伝えたい。これを励みに頑張ります。



文部科学大臣賞「流転」相川頼之(千葉県)



文部科学大臣賞「時間の彫刻」永田久美子(長崎県)

※全入選作品は文協ホームページ、発売中の第71回全国展作品集(図録)でご覧になれます。